宗教哲学会 第14回学術大会

2022 年 **3** 月 **26** 日(土) オンライン大会(Zoom ミーティング)

研究発表

第1部会 9時20分~12時50分

- 1. 自覚をめぐる京都学派的問いの深度 一根源悪の問いをめぐる田辺哲学の議論を手掛かりに 菊池壮太(京都大学)
- 2. 久松真一の『茶道の哲学』にみる人間形成 松本きみゑ(大阪大学)
- 3. 西田幾多郎のポイエーシスの哲学の再構築 一鈴木大拙と柳宗悦を参照しながら 太田裕信(愛媛大学)
- 4. 『教行信証』における顕真実教の根拠―教の内容に先立って 鶴留正智(大谷大学)

第2部会 9時20分~12時50分

- 1. ガブリエル・マルセルにおける現代的ニヒリズムの問題 鳥尾理沙(京都大学)
- 2.フロイトの原罪とラカンの無神論―超自我と〈父の名〉をめぐって 網谷優司(京都大学)
- 3.シャルル・ルヌヴィエの多元的存在論と宗教の問題 山根秀介(舞鶴工業高等専門学校)
- 4. 宗教的体験は語りうるか? 一ウィトゲンシュタインの「私的言語論」再考言野斉志 (京都大学)

第3部会 10時15分~12時50分

- 1.ヤーコプ・ベーメの感覚言語 徳田安津樹^(東京大学)
- 2. 宗教と哲学の関係性をめぐる若きショーペンハウアーの思索 ーシュライアマハー「キリスト教時代の哲学史」講義の聴講録を手がかりに 堤田泰成(上智大学)
- 3.ルドルフ・オットーのフリース受容の背景 ーデ・ヴェッテおよびアーペルトに着目して 太田匡洋(早稲田大学)

シンポジウム 14時~17時30分

「宗教概念批判以降の宗教と哲学」

- 1.宗教認知科学の哲学的基礎 藤井修平(東京家政大学)
- 2. 概念を駆り立てるもの―宗教概念批判とドイツ概念史研究 下田和宣(成城大学)
- 3. 普遍主義のポスト世俗的な条件―宗教の翻訳について 坪光生雄(-橋大学)

司会・趣旨説明:古荘匡義(龍谷大学) コメンテーター:後藤正英(佐賀大学)